

事務事業の概要・計画 (PLAN)

| | | | | | | | |
|----------------|--|------|-------------|-------------------|---|------|---|
| 事務事業名 | ふるさと納税事業 | 会計名称 | 一般会計 | | 担当課 | 財政課 | |
| | | 予算科目 | 2 款 1 項 7 目 | 事業番号 | 251 | 所属長名 | 皆川竜男 |
| 事業評価の有無 | <input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ) | | | | 担当責任者名 | 橋かつら | |
| 法令根拠等 | 所得税法・地方税法 | | | | 実施期間 | 【開始】 | 平成 20 年度 |
| 総合計画での位置付け | 参画協働推進都市の創造 効率的で透明性の高い行財政運営 | | | | | 【終了】 | 平成 年度(予定) <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし |
| 総合計画における本事業の役割 | 地方財政の状況が厳しさを増す中、有効な財源確保の手段として最大限の活用を図る。 | | | | | | |
| 事業の対象 | 市職員及び市民 | | | 事業の目的 | 財政基盤の強化を図るとともに、制度を通じて伊予市の魅力を全国に発信する。 | | |
| 事業の内容 (整備内容) | 寄附申込みの受付から収納までの事務及び制度啓発事務 | | | 昨年度の課題に対する具体的な改善策 | カタログを刷新し巻頭に「柑橘特集!」と称して返礼品で取扱う6種類の柑橘をまとめて紹介することとした。紅まどんなとデコボンの1万円寄附コースを新設するとともに、紅まどんなの受付開始を従来より1ヶ月早めた。新規にPONジュースの製品4種類、及び愛媛県産はだか麦使用パンを加えた。現在は3か月連続返礼品お届けコース他を検討中である。 | | |

事業活動の内容・成果 (DO)

| 事業費及び財源内訳 (千円) | | | | | | | 事業活動の実績 (活動指標) | | | | | |
|----------------------|-----------|---------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|--------|----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 項目 | 前年度決算 | 当初予算額 | 補正予算額 | 継続費その他 | 翌年度繰越 | 決算額 | 項目 | 単位 | 29年度実績 | 30年度予定 | 9月末の実績 | 30年度実績 |
| 直接事業費 | 9,543 | 9,710 | 4,017 | 0 | 0 | 13,541 | 寄附件数 | 件 | 1524 | 2000 | 212 | 2674 |
| 財源内訳 | | | | | | 0 | | | | | | |
| 国庫支出金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | |
| 県支出金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | |
| 地方債 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | |
| その他 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 寄附金額 | 千円 | 30213 | 31000 | 3820 | 42080 |
| 一般財源 | 9,543 | 9,710 | 4,017 | 0 | 0 | 13,541 | | | | | | |
| 職員の人工(にんく)数 | 0.65 | 0.00 | | | | 0.00 | 0 | | | | | |
| 1人工当たりの人件費単価 | 8,017 | 7,982 | | | | 7,982 | | | | | | |
| ※ 直接事業費+人件費 | 14,754 | 9,710 | | | | 13,541 | | | | | | |
| 主な実施主体 | 直接実施 | | 実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄) | | ふるさと納税返礼品調達業務委託料12,643千円 | | | | | | | |
| 向こう5年間の直接事業費の推移 (千円) | | | | | 31年度 | 32年度 | 33年度 | 34年度 | 35年度 | 5年間の合計 | | |
| | | | | | 11,277 | 13,000 | 13,000 | 13,000 | 13,000 | 63,277 | | |
| 成果指標 | 指標 | 寄附金額 | 単位 | ⇒ | 区分年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 目標 | 毎年度 | | |
| | | | 千円 | | 目標 | 30000 | 31000 | 35000 | 40000 | | | |
| | 指標設定の考え方 | 目的を財政基盤の強化としていることから、寄附金額を指標とする。 | | | 実績 | | | | | | | |
| | 指標で表せない効果 | | | | | | | | | | | |

事務事業評価 (CHECK)

| 新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過) | | 返礼品開発については積極的に取り組んでいる。外部評価委員の意見を基に、返礼品の柑橘を前面に押し出すこととし、カタログの巻頭に「柑橘特集!」と称して柑橘6種類をまとめて掲載した。紅まどんなとデコボンの「1万円寄附コース」を新設するとともに、紅まどんなの受付時期を従来より1ヶ月早めることとした。柑橘のPR及び年間を通じて寄附が見込める返礼品として、新たにPONジュースを加えた。その他、市内事業者が生産する愛媛県産はだか麦使用パンを加えた。郵便局と連携したイベント「郵便局フェスタ」において、県内大型店舗でふるさと納税のPRを行った。郵便局と連携したイベント「郵便局フェスタ」において、県内大型店舗でふるさと納税のPRを行った。新たな試みとして、紅まどんな関連の返礼品3種類を1ヶ月に1種類ずつ届ける「紅まどんなお楽しみコース」を開発中である。 | | | | | | | | | |
|------------------------------------|-------------------------------------|---|---|---|---|---|--------------------------------------|---|---|------------------------|---|
| 事業 業務 事業 業 の 評 価 | 自己 判定 (担 当 責 任 者) | 妥当性 | 目的の妥当性 | 5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 | 5 | 合計点が | S | 事業 成果 ・ 工夫 した 点 事業 の 苦 労 した 点 ・ 課題 | 紅まどんなの受付時期を1ヶ月早めたこと及び今年は豊作であったことから、前年度比27.6%増加した。「郵便局フェスタ」において、初めて庁外でふるさと納税の制度周知及び返礼品紹介を行ったところ、後日、その際に対応した方からより詳細な説明を求める連絡が入った。カタログを刷新するに当たり、柑橘特集を掲載するとともに自ら写真の取り直しを行った。インターネットのページについては紹介内容を追加した。 総務省基準を逸脱しないよう全ての返礼品に対し調査を行った。 | | |
| | | | 社会情勢等への対応 | 5 4 3 2 1 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 | 5 | 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | | | | | |
| | | | 市の関与の妥当性 | 5 4 3 2 1 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 | 5 | 合計点が | | | | | |
| | | 有効性 | 事業の効果 | 5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 | 5 | 合計点が | | | | S | |
| | | | 成果向上の可能性 | 5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 | 4 | 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | | | | | |
| | | | 施策への貢献度 | 5 4 3 2 1 施策推進に向け、効果を認めることができる。 施策推進につながっていない。 | 5 | 合計点が | | | | | |
| | 効率性 | 手段の最適性 | 手段の最適性 | 5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 | 4 | 合計点が | S | | 郵便局と連携して新たな返礼品開拓に取り組んでおり、徐々に事業者からの返礼品提供申し出が増えてきている。周知方法として、市内のホテルのロビーや客室にカタログを設置し市外の方へのPRを行う等、周知方法に苦慮している。品物以外の事業に対する補助についての実現が今後の課題である。総務省の提示する「地場産品」を使った返礼品を開拓することにより、本市の逸品をPRするとともに、貴重な財源確保として事業拡大を図りたい。 | | |
| | | | コスト効率 | 5 4 3 2 1 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 | 5 | 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | | | | | |
| | | 市民(受益者)負担の適正 | 5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。 | 5 | 合計点が | | | | | | |
| | 一次 判定 (所 属 長) | 妥当性 | 目的の妥当性 | 5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 | 5 | 合計点が | S | | | 事業 の 方 向 性 | ■ 事業継続と判断する。 □ 事業縮小と判断する □ 事業廃止と判断する (判断の理由) 目的に即した事業である。 |
| | | | 社会情勢等への対応 | 5 4 3 2 1 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 | 5 | 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | | | | | |
| | | | 市の関与の妥当性 | 5 4 3 2 1 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 | 5 | 合計点が | | | | | |
| 有効性 | | 事業の効果 | 5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 | 5 | 合計点が | S | | | | | |
| | | 成果向上の可能性 | 5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 | 4 | 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | | | | | | |
| | | 施策への貢献度 | 5 4 3 2 1 施策推進に向け、効果を認めることができる。 施策推進につながっていない。 | 5 | 合計点が | | | | | | |
| 効率性 | 手段の最適性 | 手段の最適性 | 5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 | 4 | 合計点が | S | 所 属 長 の 課 題 認 識 | 年間を通じた返礼品の発掘が必要と考える。 | | | |
| | | コスト効率 | 5 4 3 2 1 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 | 5 | 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | | | | | | |
| | 市民(受益者)負担の適正 | 5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。 | 5 | 合計点が | | | | | | | |

| | | | | |
|-----------|------|-------------------------------------|---|--|
| 施策を踏まえた判断 | 二次判定 | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。 | ⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業継続と判断する。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。 | |

| | | |
|---|------|-------|
| 行政評価委員会の答申 | 外部評価 | 答申の内容 |
| <div style="border: 1px solid black; height: 100px;"></div> | | |

今後の方向性 (ACTION)

| | | | |
|--------------------------|-------------------------------------|------------------|---|
| の経営者判断議 | 事業の方向性 | コメント欄 | |
| | <input type="checkbox"/> | さらに重点化する。 | <div style="border: 1px solid black; height: 100px;"></div> |
| | <input checked="" type="checkbox"/> | 現状のまま継続する。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 右記の点を見直しの上、継続する。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 事業の縮小を行う。 | |
| <input type="checkbox"/> | 事業の休止、廃止を行う。 | | |